## ひざらがひ

一見蟲の樣であるが、八枚の鎧狀の貝殼が有つて、岩石に附著して居る、各地に產す、

にしきひざらがひは殼面平滑で斑紋が美しい、

## つのがひ

空筒の牙狀で、六角、八角、圓筒等、大小數種ある、動物は圓筒中にあつて、海底に埋沒して棲息す、

## まるつのがひ　目八

つのがひ中の大なるもので、長さ三寸內外、少しく彎曲し、帶黃色で縱助あり、細き方には切れ込あり、太き方を上方とし、斜に海底に埋沒して居る、日本南部に產す、

*Dentalium vernedei*, 'Hanl' Sowb. (八日)ヒガノツルマ

*Liolophura japonica*, Lischk. ヒガラザヒ

*Onithochiton hirasei*, Pils. (瀬戸)ヒガラザヒキシニ

## つゝがき

### 又尺八貝、鐵砲貝

此筒狀怪物は、始め何に屬すべきや、不明で有つたが、基部に在る、雙貝の痕跡により、辨鰓類に屬するものと、斷定せられた、

長さ七寸内外、殼は極脆弱で、上端は積樣の皺二三列を繞らし、基部は無數の小管孔ありて根の如く、海底砂地に深く埋沒し、漸く上端少許を餘すのみである、貝殼の周圍には、砂粒貝殼などを固著せしめて居る、相房附近及四國九州等に産す、

*Aspergillum gigantum*, Sowb. $\frac{1}{2}$ キガ、ツ

かもめがひ　目八

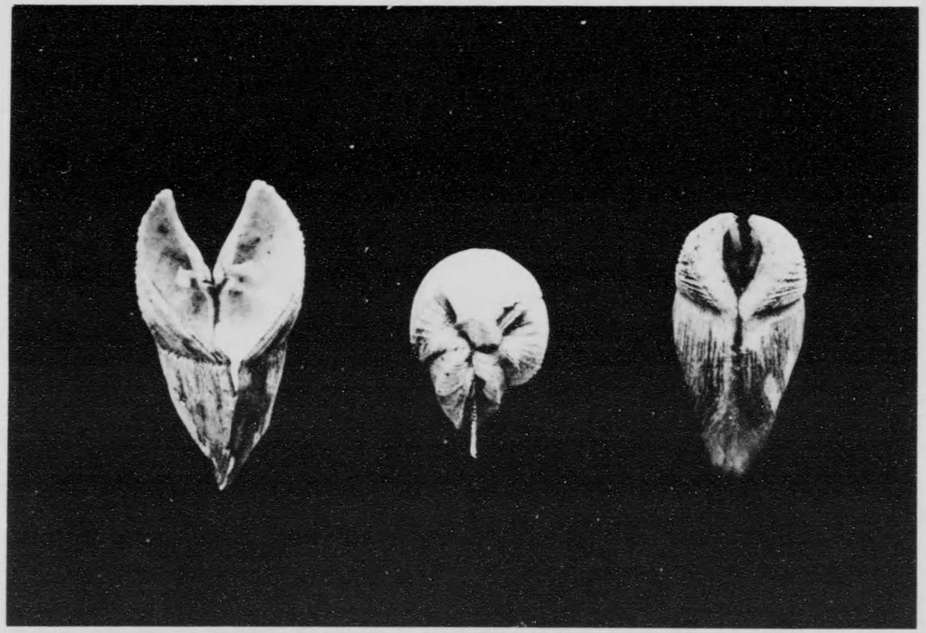
一寸二分内外、殼質脆弱、白色で殼の前半部は球狀を爲し、鐶目の彫刻あり、後部は長し、此貝は泥岩に穿孔して棲息し、終生孔内より出る事が無い、體より燐光を放つと云ふ、各地に産す、

どげすゞがひ　平瀬

一寸内外、殼質脆弱、白色球狀の貝である、卽ち前部は丸く、後部に鐶目の彫刻ありて、前種と同じく泥岩に穿孔して、棲息す、紀州に多く産す、

にほがひもどき　平瀬

一寸五分内外、殼質脆弱、白色で前半部は丸く、缺損したる如く開き、鐶目の彫刻あり、殼頂の内部には小さき殼片を有す、前種と同じく、泥岩に穿孔して棲息す、



*Zirphæa crispata*, L. (瀬平)キドモヒガホニ

*Jouannetia globosa* Quoy. (瀬平)ヒガバスゲト

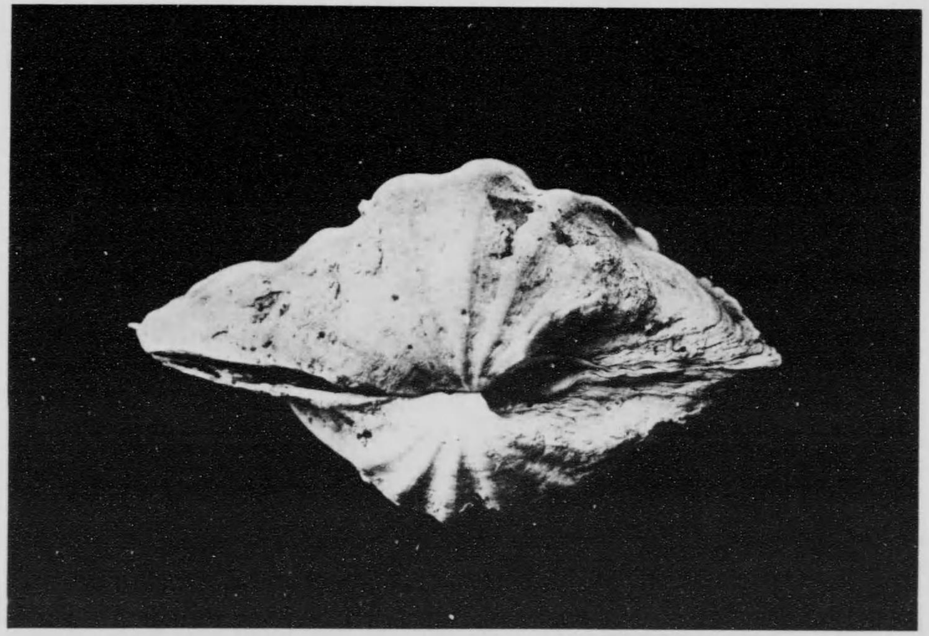
*Pholadidea penita*, Conr. (八日)ヒガメモカ

## しやこ

殼質重厚、貝類中の最大なるものである、大なるものは、幅四尺餘重量七八十貫目に餘ると云ふ、我國では琉球南部に產し、海底の岩石ある處に附著し、二尺內外より大きのは無い、

殼は鈍三角形で、放射助は荒く波形で、渦脈も荒く反曲して、外觀は漆喰細工の樣で有る、內面は平滑で中央に大なる肉柱と奚痕を印して居る、貝殼は碁石及珠玉印材等を作る、

昔は七寶の一として、貴重したもので、石帶に用ひたので名高い、



*Tridacna gigas*, Lamark. $\frac{1}{8}$ コ ヤ シ

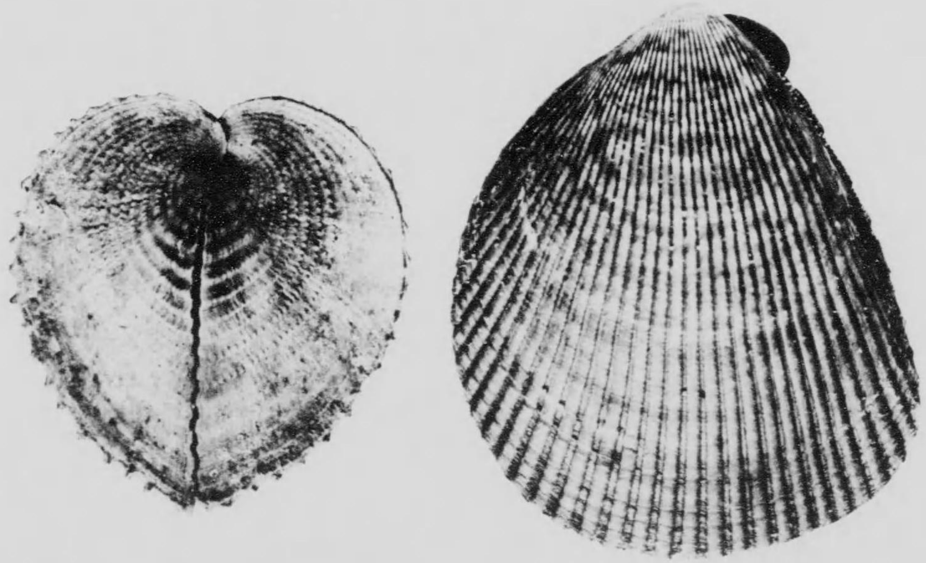
## ざるがひ

長楕圓形で二寸五分内外、多數の放射助あり帶黄褐色で肉は食す、暖海に産す、

## あほひがひ　介志

又りうきうあほひ

一寸五分内外、雙貝中の嘴形の一で、ハート形を爲して居るのは、實は其側面である、帶黄白色で、殼頂は全く一方の端に偏し、小さき靱帶あり、細き鋭き齒で嚙合て居る、前方は貝殼膨れ、荒き隆起ある放射線が、斜に腹緣に走つて居る、後方は稍平坦で、隆起は尠い、荒き鋸狀の龍骨が前後兩方の境界を爲して居る、琉球に産す、



*Cardium*(*Hemicardium*)*cardissa*, Linn. （志介）ヒガヒホア
（ヒホアウキウリ）

*Cardium burchardi*, Dkr. ヒガルザ

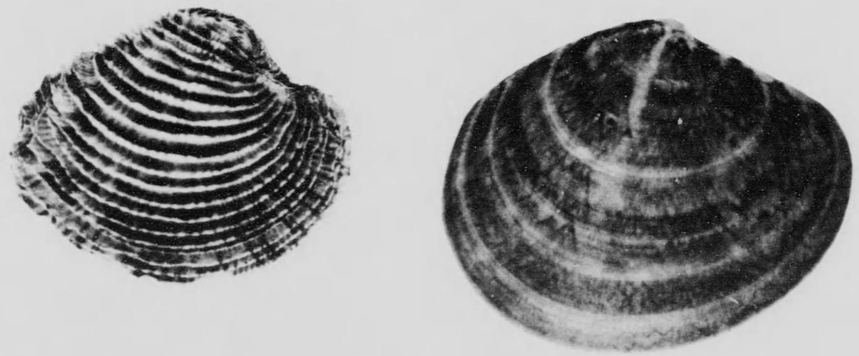
## わすれがひ　六介

大さ一寸五分内外、殼厚く扁平で、殆んど圓く、前方稍突出て、表面は平滑で、薄紫又は帶黃色の地に、紫の曲線狀の模樣を彩り、茶色の稍厚き外皮を被て居る、內面は薄紫色を呈し、腹緣には細かき齒あり、中國四國地方に多く產す、

いさまあらはひろひに行かん住吉の
岸によるてふ戀忘れ貝

## さつまあさり

大さ一寸內外、殼頂は前方に偏し、放射線の末端が反曲して、板狀をなして渦脈となり、淨山平行して居る、丁度兜の鞦の樣である、溪肉の地に、濃き栗色の斑紋がある、暖海に產す、



*Cytherea lamellaris*, Schm　　リサアマツサ

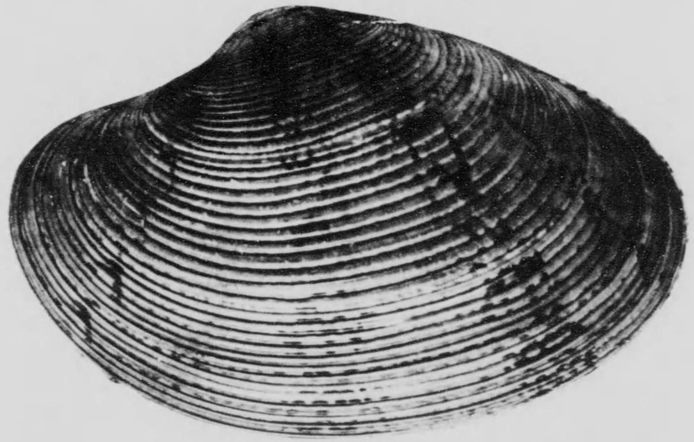
*Sunetta excavata*, Hanl.　　(介六)ヒガレスワ

おほすだれ　介志

大さ二寸内外、横長く薄肉の地に、微かに電光狀の斑紋と、濃き放射樣の斑紋あり渦脈は廣く滑かで美しい、肉は食用とす各地に產す、

波かゝる吹上の濱のすだれ貝
風もてなろす磯にひろはむ

西行



*Tapes schnellianus*, Dkr. （志介）レダスホオ

## みるくひ

大さ三寸内外、貝殼は白く粗造で、黑く汚れたる外皮を被り、殼項の内部に突起が有て丸き靭帶を藏し、其兩方に齒がある、貝殼の後部は切り取りたる如く、合せ目に丸き穴を明けて居る、

動物は非常に水管長く、體の二倍にも延長して、泥地に深く埋沒して棲息す、此水管は殼内に縮込む事が出來ぬ、そこで貝殼の合せ目に、穴が出來て居るのである、各地に産す、

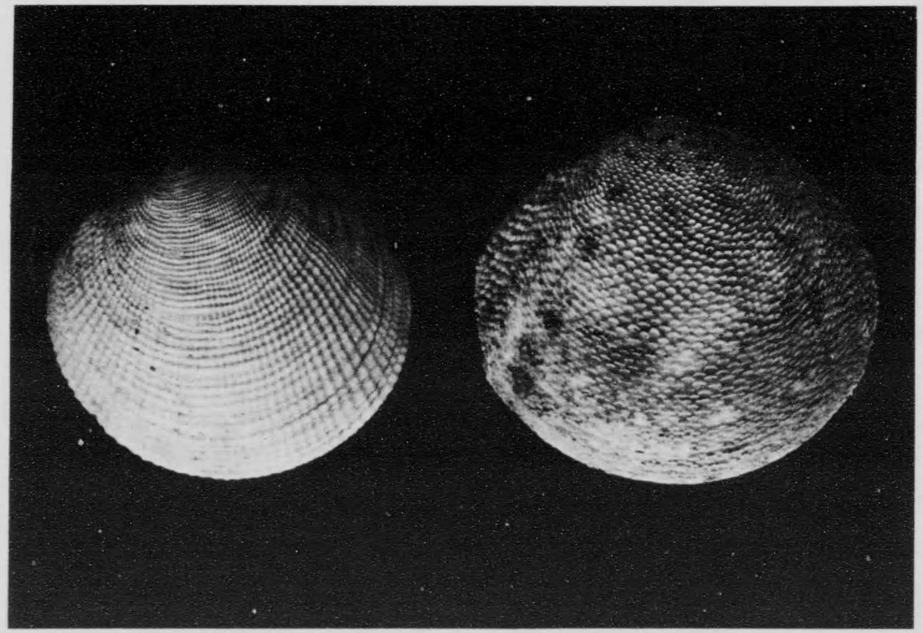
*Tresus nattalli*, Conrad. ヒクルミ

## さめざら　岩川

大さ一寸五分内外、正圓形扁平で、右殼は少し大きく、殼頂で喰違つて居る、腹緣の後部は屈曲して、微角が殼頂に達して居る、渦脈は細鱗狀に反曲して、微かに薄柑色の放射線、數條を彩つて居る、琉球に產す、

## つきがひ

大さ一寸五分内外、正圓形扁平で、殼厚く放射線と、渦脈と相交叉して、布目狀隆起をなし、内部は白又は黃色で、腹緣に紅を彩り美麗である、琉球に產す、



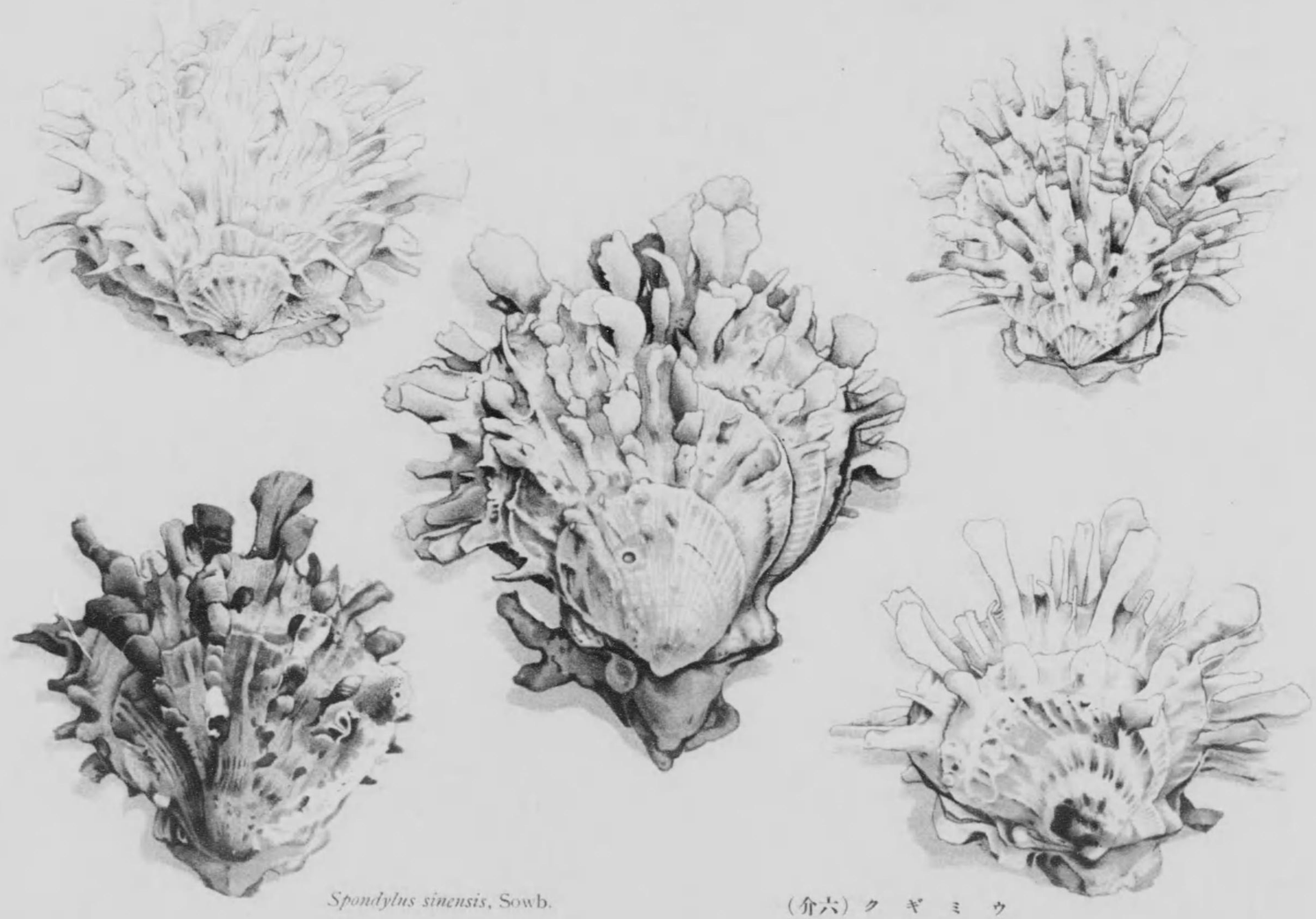
*Lucina*( *Codakia*)*tigerina*, Linn. ヒ ガ キ ツ

*Tellina scobinata* Linn (川岩) ラ ザ メ サ

## うみきく　六介

二寸内外、歪みたる巾着形で、殼頂は中央にあり、

放射脈上に長く、平たき刺が、不規則に突出して、菊の花瓣の樣で、種々の色彩が有つて美しい、他の半片の殼頂は削りたる如き、三角面を有し、此方を下にして岩石などに固著し居る、内面の殼頂部中央に、丸き靱帶と、左右に二箇の嚙合ふたる齒と、中央に肉柱を有し、外海に産す、

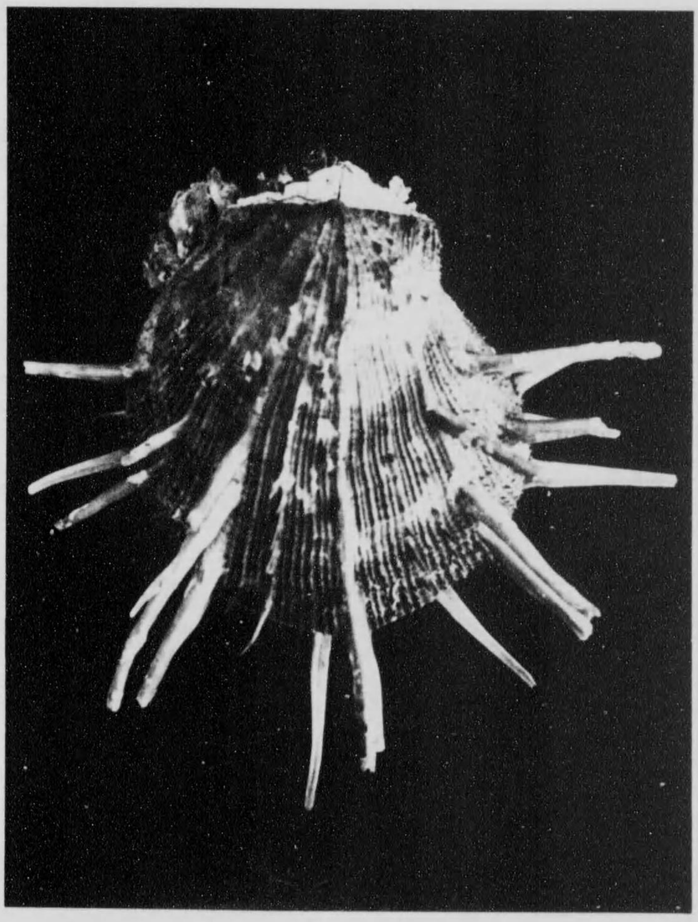


*Spondylus sinensis*, Sowb.

（介六）クギミウ

しやうじやうがひ

うみきくより大きく、三寸内外あり、殼厚く表面深紅色で、放射脈上に、鋭き刺あるもの數條と、其間に密なる小刺ある、射線がある、外海に稀に産す



*Spondylus regius*, Linn. ヒガウヤジウヤシ

## ほたてがい　六介

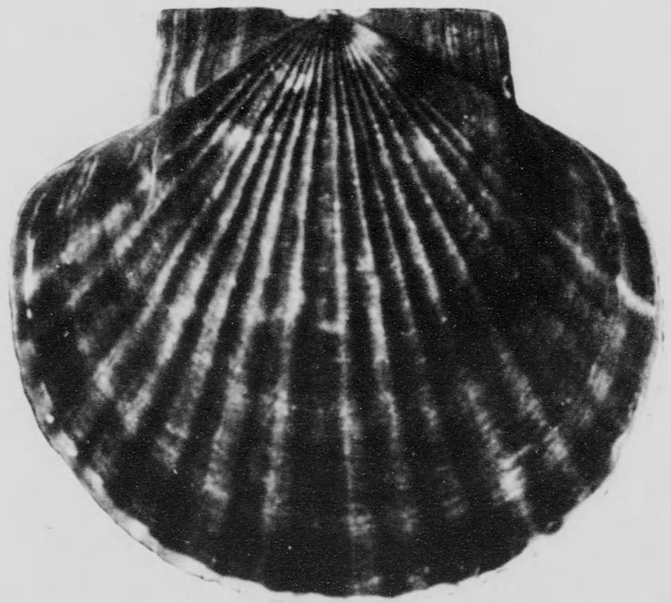
大さ六寸内外、圓形扁平で、殼頂に耳狀突起あり、二十餘條の放射隆起がある、右殼は帶黄白色で、稍深く肉を藏し、左殼は海老茶色で、右殼に比し扁平である、殼頂内部に靭帶と、中央大肉柱とを有し、貝殼を烈しく開閉し、水を噴出する反動により、後方に移動する、三陸地方北海道にのみ産す、

肉は食用とし美味である、肉柱は乾燥して輸出す、其産額は海産物中の主位である、介殼は鍋の代用とす、

一種　いたや貝は小さく、放射隆起荒く貝杓子に用ひ各地に産す、

夏さけてたゝ二人すむ浦の家
小鍋に代へし帆立貝かな

葛園



*Pecten yessoensis*, Jay. $\frac{1}{2}$ （介六）ヒガテタホ

るぞきんちやく　岩川

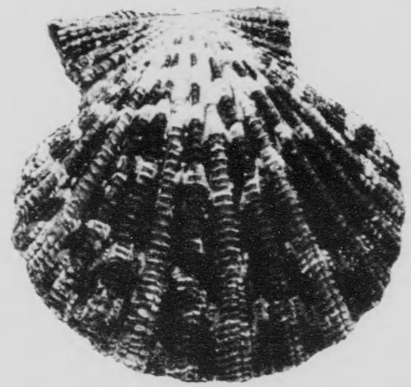
大さ二寸五分内外、長き巾着形で、耳狀突起は一方に長く、表面深紅色で、五條の大隆起は三階段をなし、其間に密なる放射隆起がある、裏面は白色で、隆起は表面の反對になつて居る、東北地方にのみ産す、

りうきうひあふぎ

大さ二寸内外、圓形で荒き放射隆起上は、鱗狀反曲を密生し、白地に濃き海老茶色の斑紋が有て、甚美麗である、琉球に産す、

*Pecten*(*Lyropecten*)*swifti*, Bern.

*Pecten Pallium*, Linn.



(川岩)クヤチンキゾエ

ギフアヒウキウリ

## まかき

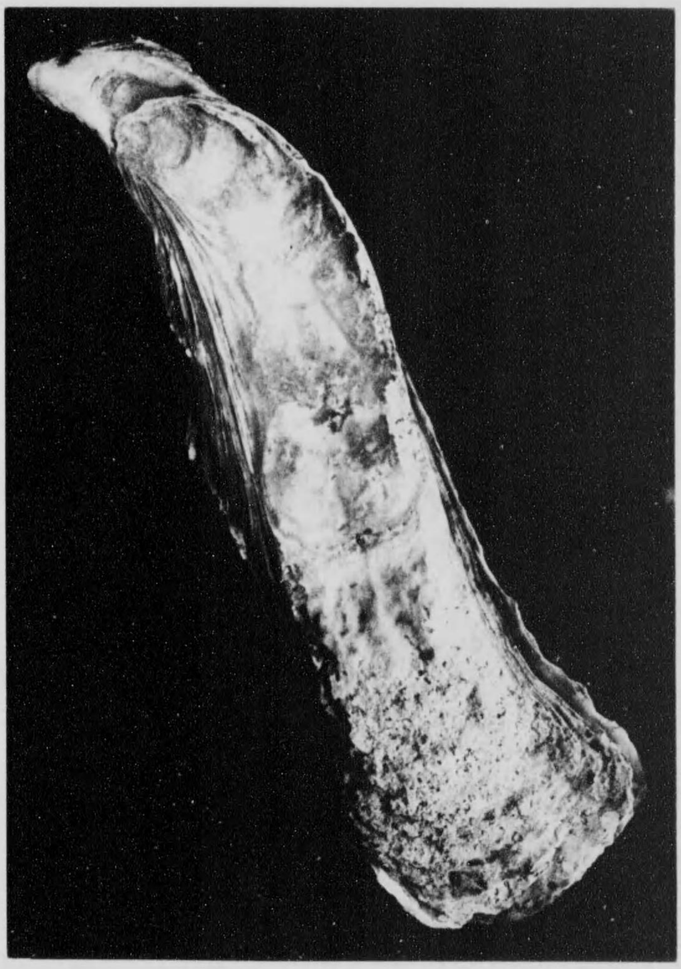
かきは五六月頃産卵し、一定の期間後岩石などに固著生活を爲す、生長したる貝は、大さ一寸五分内外、長圓形で薄き石灰質の貝殼である、表面には荒き葺瓦狀の反曲と、黑き二條の放射帶がある、右殼は扁平で、左殼は深く肉を藏し、岩石に固著す、中央に肉柱あり、殼頂部は尖り靭帶がある、

かきは最も滋養に富み、各地に養殖するが、廣島産のは古來殊に有名である、又生貝の儘輸出する、貝殼は灰を製す、胃腸心臟病の藥品「グリコナール」は、肉中に含むグリコーゲンなる、滋養分を分解製藥したものである、

別圖は北海道に産するかきで、長さ一尺内外、貝殼厚く、蠣中で巨大なるものである、研究の結果、まかきと同一種であると云ふ事が、確められた、

橋つめに蠣の貝割る賤の女の
並ぶつぶりに枯柳ちる

葛園



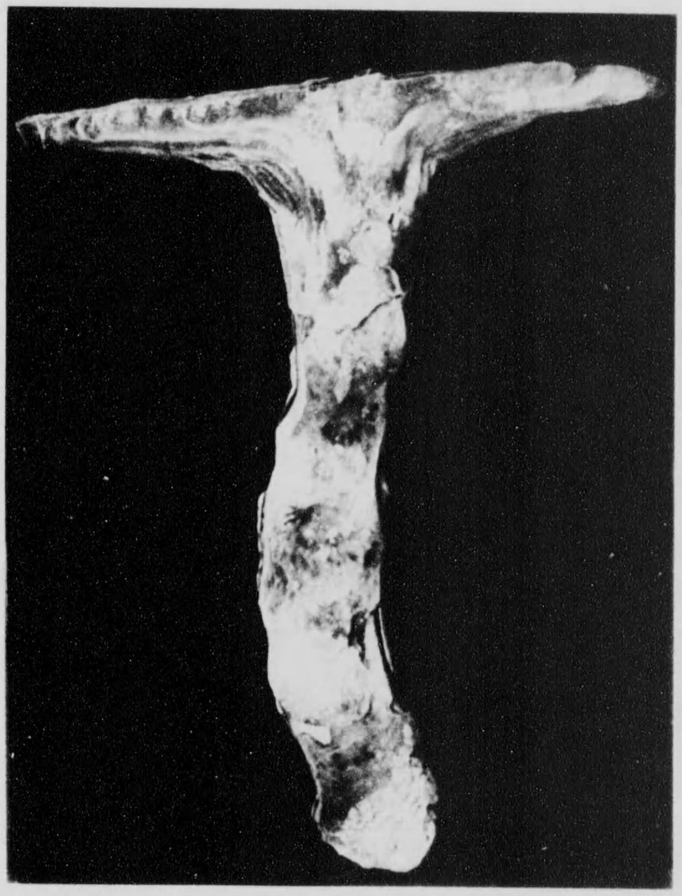
*Ostræa gigas* Thunbery. $\frac{1}{2}$ ヒ カ ゾ エ

## しゆみせん　六介

又しゆもくかき

長さ一尺内外、丁字形で灰色の荒き葺瓦狀で、殼質脆く、殼頂部に靱帶あり齒なく、内部に少許の肉を藏し、中部以西に產す、

一種　暗黑色で殼の反曲したるは、くろしゆみせんと云ふ、



*Malleus albus*, Chem. 3/5 (介六) ンセミユシ

## たひらぎ　五介

大さ一尺内外、長三角形で、殼質脆弱暗黑色で、放射助に細鱗突起あり、背緣には靭帶を有し、中央に大肉柱あり、突角部を下にし、泥土中に殼の三分二を埋沒して倒立し、腹部より貝絲を出して、周圍の砂泥に附著して居る、九州西南に多く產す、貝柱のみを割烹に供し又鑵詰として食す美味である

*Pinna japonica*, Hanl. $\frac{1}{2}$ (介五)ギラヒタ

## いがひ

又いのかひ、淡紫、周利、東洋婦人、

長さ三寸内外、長三角形で、暗黒色の外皮を被り、内面は濃紺紫色を帶び、美しい、足絲を出して岩石に附著し、常に多數群をなして居る、

此貝は動く事稀れで、體を移動せんとする時は、更に新しき足絲を分泌して、體を動かすので、一寸の距離を動くのも、中々容易の事でない、

各地に産するが、志摩瀬戸内海等には多く産す、

圖は北海道に産する貽貝の一種である、

*Mytilus grayanus*, Dkr. $\frac{6}{7}$ （瀬戸）ヒガイゾエ

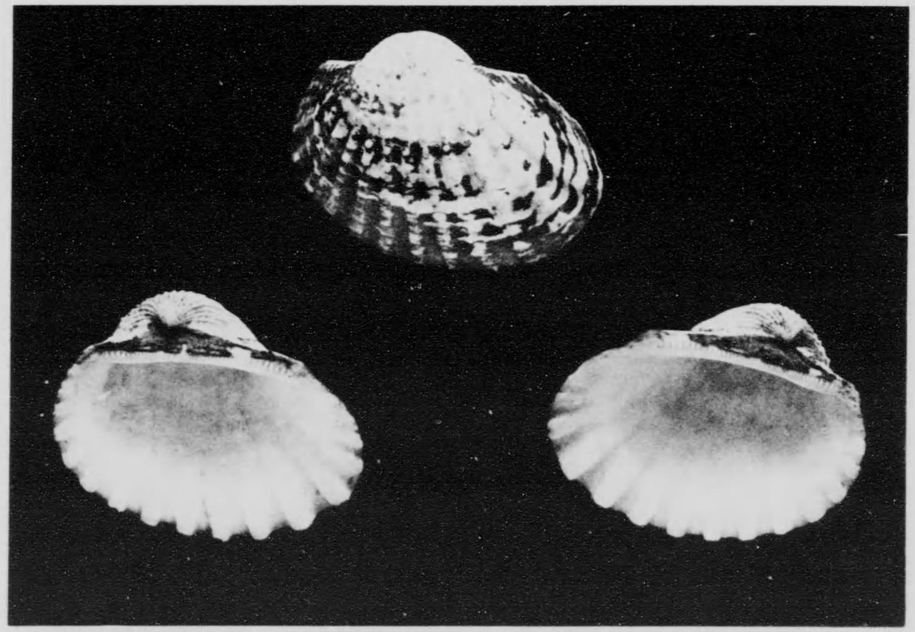
## はいがひ

ちんみ、不老貝、

大さ一寸五分内外、あかがひ、さるぼうに似て、小さく横長で、結節ある放射隆起が二十内外有る、汚泥色の外皮を被つて居る、

両殼頂の間に、菱形の平坦部が有つて、強き皮層で雙殼を結合し、櫛の様な密齒が嚙合つて居る、瀬戸内海に多く産し、殊に備前兒島灣にて、盛に養殖し年々多額を支那に輸出して居る、

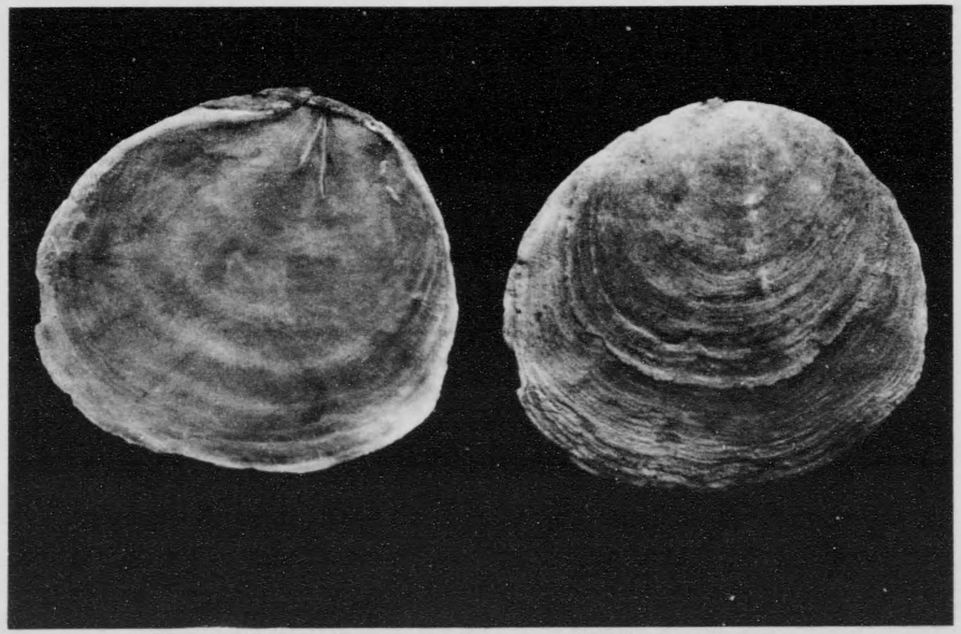
肉は美味で、貝殼は貝灰を製す、肥料又は漆喰に使用し、尙貝殼を黄、赤、青に染め絲に通して玩具とする、昔住吉の繋貝として有名で有つた、



*Arca*(*Anomalocardia*)*granosa*, Linn. ヒガヒハ

## まごがひ　漳志

大さ二寸五分内外、圓く扁平で、雲母片の様な外觀で、半透明で有る、右殼には人字形の長短二強齒が有つて、左殼の二溝と嚙合つて居る、中央には大小の肉柱を具へ、窪濘沿岸の砂地に棲息して居る、昔窓硝子の代用とした事が有る、



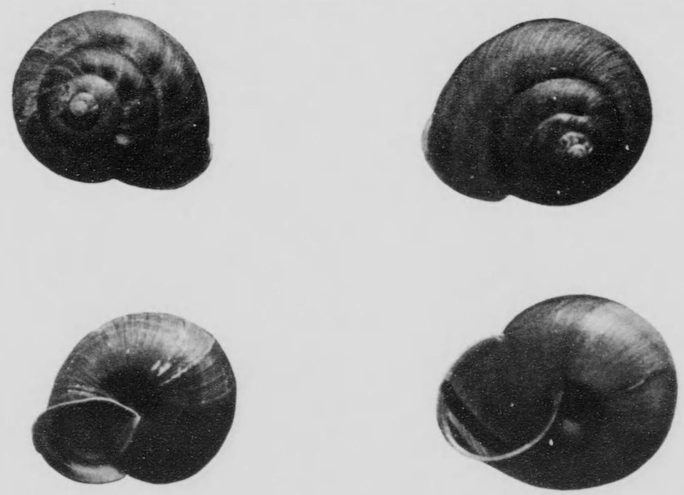
*Placenta placenta*, Linn. (志漳) ヒガドマ

## かたつむり

有肺類に屬し、大小二百餘種ある、貝殼は脆弱で、球狀や、扁平のや、班紋の有るもの、色彩の有るもの、右卷や、左卷のも有るが、左卷は尠い、動物は二對の觸角あり、長き方の先端には眼が有る、匍匐する事、遲鈍であるが、嗅覺は鋭敏である、濕潤なる地に棲息し、樹葉を食用として害を與へる

かたつむり角ふりわけよ　須磨明石

芭蕉



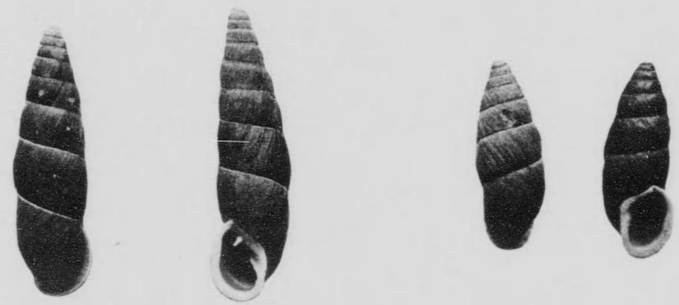
*Eulota*(*Euhadra*)*callizona maritima* P & G. リムツタカ

*Eulota*(*Euhadra*)*quæsita*, Desh. イマイマキマリダヒ

## きせるがひ

有肺類に屬し、大小二百十數種ある、陸產中の多種で有る、鋭き圓錐形で、貝殼は盡く、左に捲回し、煙管の樣である、殼口は狹く、口內皺（殼板）の位置と、閉瓣と稱する、舌狀の殼口內、閉塞板の形等により分類せらる、朽木枯葉の下等濕潤の地に棲息し、全國各地に產す、

きせるもどきは前種より螺塔低く、螺層膨らみ、右卷で殼口內に殼板が無い、



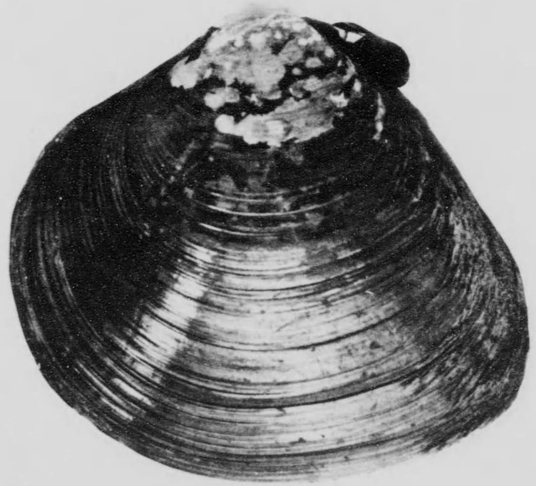
*Clausilia martensi reiniana*, Kob. ルセキホオ

*Ena reiniana omiensis*, Pils. (瀬平)キドモルセキトフ

## しゞみ

鈍三角形で、渦卷ある黑色の光澤ある外表を被り、側齒は長く、細かき鋸狀の齒を有し、內面渦心部に紫を彩るものが有る、全國各地に大小十數種を產す、

奉灣淡水川に產する一種は、直徑二寸五分內外、該屬中の最大なるものである、又淡路賀集の谷川に產する（あはぢしゞみ）は、稍隋圓形で、直徑二分五厘內外、該屬中の最小なるものである、近江琵琶湖の瀨田附近に產するものは、美味で名高い、肉を食用とする外、貝殼は灰を製し、間々分泌する眞珠は藥品に供せらる、



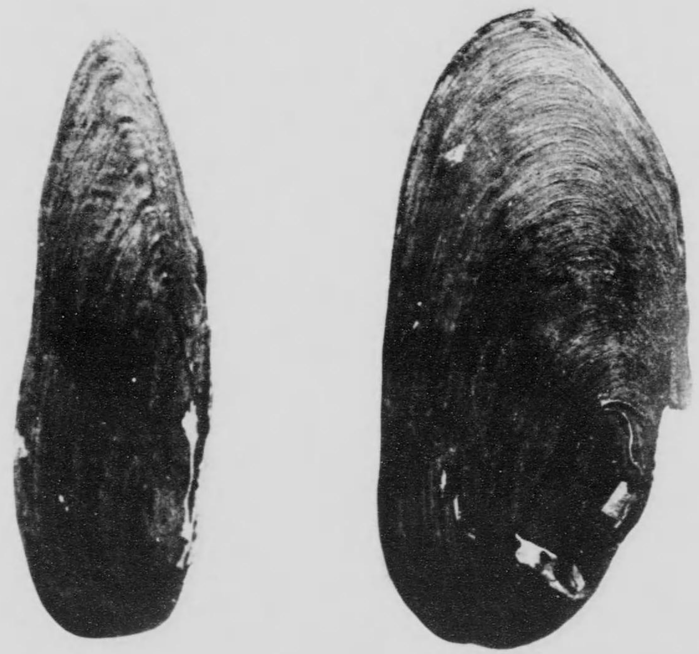
*Corbicula maxima* Prime.

## かはしんじゆ　岩川

長さ三寸五分内外、長楕圓形で、暗黑色の外皮を被り、殼頂は前方に偏し、多くは外皮剝脫して、石灰質を露出して居る、内面は銀色で、彫刻ある大小の二齒と、細長き直線の側齒がある、又前方主齒の基に肉柱の痕を刻し、北海道各地、及東北地方に產す良好なる眞珠を分泌する事あり、

## さゝのは　物議

長さ三寸内外、細長く暗黑色の、渦脈ある外皮を被り、殼頂は殆んど前端に位し、其内部に彫刻ある主齒と、長き直線の側齒あり、前後の肉柱痕は著しく、脈面白色で各地に產す、

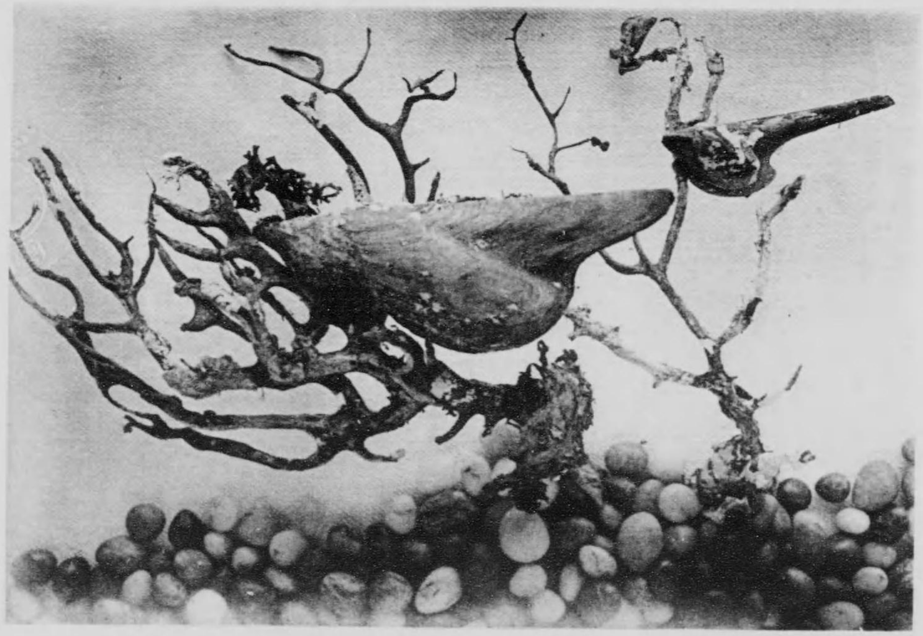


*Nodularia gladiolus* Heude. (議物) ハ ノ ヽ サ

*Margaritana margaritifera*, Linn. (川岩)ユ ジ ン シ ハ カ

## うぐひすがひ　六介

彼方の山、此方の谷にも、海松や、海藻が林の如くに茂つて居るのは、陸上と少しも變つた事はない、海松の枝には、うぐひす、ふくらすゞめ、ほとゝきすなどの貝が附著して居る、此貝は眞珠貝や、貽貝と同じく足絲を出して、殊に枝を選んで附著するのは面白い、紀伊附近に產す、



*Pteria brevialata*, Dkr. (介六)ヒガスヒグウ

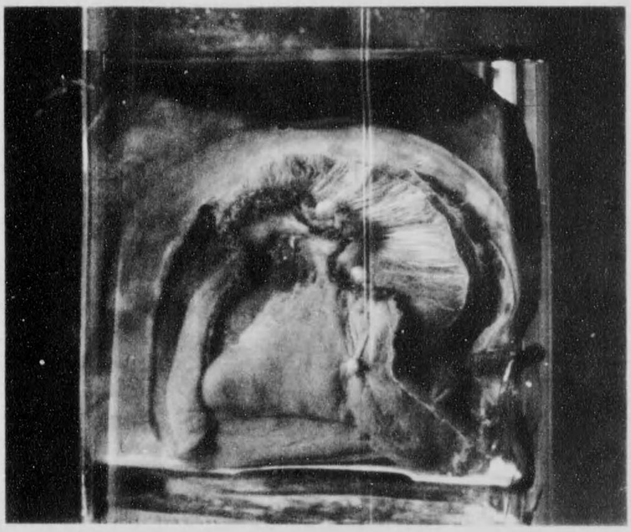
*Pteria, loveni*, Dkr. メヾスラクフ

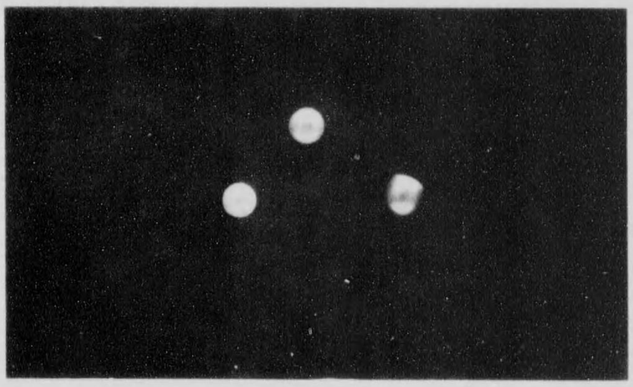
## 眞珠

眞珠は多く二枚貝に分泌すれどもあこやがひに分泌するを優良とす故に此貝を眞珠貝と云ふ蝶貝には大なる眞珠を產するを以て有名なり、

眞珠の分泌は核となるべきもの殼內に浸入し貝の分泌する眞珠液を以て包圍せられ眞珠を形成す此原因二あり一は外部より砂礫等の混入する場合貝は直に分泌液を以て眞珠を形成す此種のものは多く介殼に附著す一は血管內に寄生蟲の侵入したる場合同樣の作用にて眞珠を形成するものにして此種のものは優秀なる眞珠を形造くるものなり、

眞珠は正圓形所謂八方轉び銀色玲瓏たるものを上乘なるものとす黃色又は金色を帶びたるものはきんだまと云ひ間々黑色のものは珍品として賞翫せられ醫藥粒の小なるは藥品とす、





上　肉中ニ分泌セル天然眞珠

下　優秀ナル天然眞珠

## 支那養殖眞珠

南部支那では、古來養殖眞珠を作つて居る、是れは烏貝に佛像、又は珠、鯉魚等の鉛製の型を、數多く貝殼の內面に附著せしめ、再び池中に放置し、二箇年位の後取り上げる時は、麓の鉛製の型には、貝の分泌する粘液が沈澱して、薄き膜で掩はれて有る、是れ卽ち養殖眞珠を得たので有る、

支那義烈皇后
鳥目ニ仏像
ノ原型ニ彫像
ルモノ

## 日本養殖眞珠

養殖眞珠に二種ある、眞珠貝を養殖して、天然眞珠を獲るものと、眞珠貝に人工的施術を以て、天然の如き眞珠を得るものとで有る、後者の方法は眞珠貝、一箇年のものを養殖場に移し、貝製の珠(核)を貝殼と肉の間に挿入し、再び海中に放養し置き、約三箇年後に取揚げる時は、鬚の貝珠は厚き眞珠層で掩はれたる養殖眞珠を得るので有る、

近時其技術も進歩し、優良なるものを得らるゝ樣になつた、併し眞珠は介殼に附著して出來るので、一方缺圓となるのは、該法の缺點である、偖し裝飾品に加工する時は、此缺點を補ふ事が出來る、又或一法は肉中に小球を挿入し、天然眞珠と同一作用を起さしめ、圓形なる養殖眞珠を得る事も試驗中である、

眞珠養殖の産地は、三重の英虞灣、五箇所灣、愛媛の宇和灣、的矢灣を主とし淡路福良灣肥前大村灣等である、

日本養殖眞珠
貝製ノ核ヨリ
成ル養殖眞珠

上
施技當時ノ母
貝ト核

下
完成シタル養
殖眞珠

# 貝の利用（一）

## 螺鈿と芝山象嵌

螺鈿とは鸚鵡貝、屋久貝（青螺又夜光）金銀等にて、華章を作り、器物に嵌入するのを云ふ、而して其起源は詳でないが、奈良朝時代には、既に種々の器物に用ひ、又其技術も蘊奥を極めたものである（琵琶、琴、彈茶盤、鏡等に用ひて居る）降て平安朝、足利時代に至る迄、盛に其利用を見たが（帶劍、平等院の天井中尊寺の堂内を飾つて居る）漸次技術粗糙に流るゝ樣になつた、慶長元和年間に至り、始めて青貝（鮑貝）を漆器に裝嵌する法を傳へ、後世此器物を青貝細工と云ふ、又芭蕉の門弟小川笠翁なるもの、始めて介の色彩を彫嵌に利用する事を案出した、

安永年間芝山專藏なるもの、貝甲、珊瑚、角牙等を浮彫とし、器物に嵌裝する技を案出した、世に芝山象嵌と稱名である、

貝彫嵌短册懸



螺鈿圓鏡

# 貝の利用（二）

## 貝おほひ

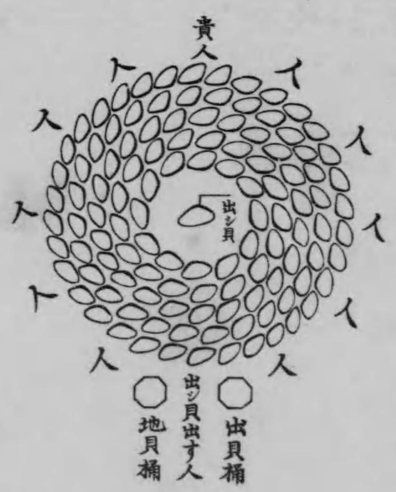
貝合と云ふ言葉は、神代より傳はり、蛤貝を說事の愛とする事は、景行天皇の御宇に始まりしとぞ、貝おほひの遊戯は、村上天皇の御宇、源高明が故事に因み、貝合してたわむれしより始まりしなれど、貝おほひの名はいつの頃よりなるか詳かならず、

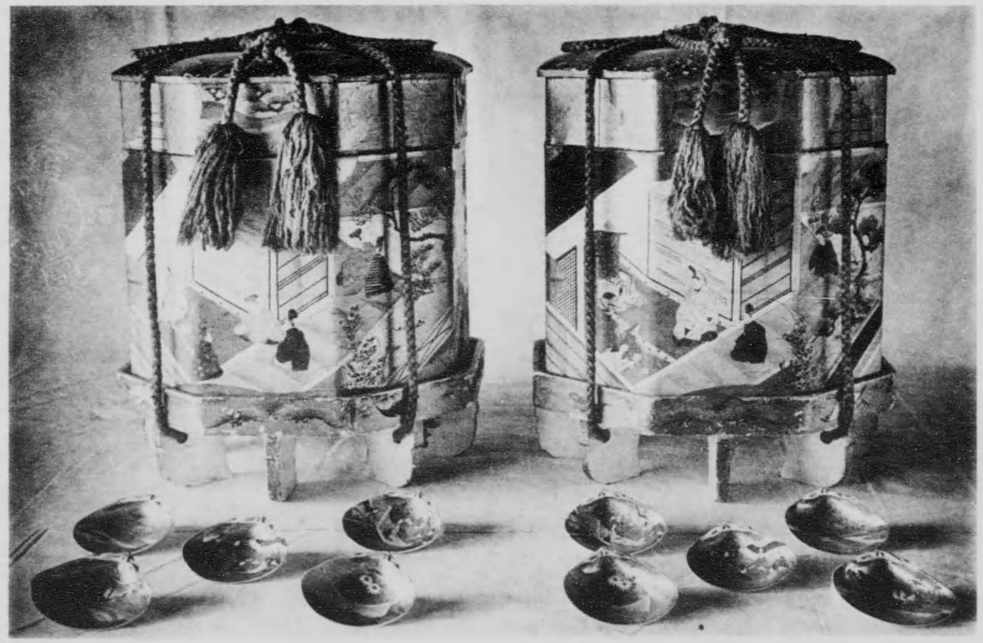
今そしる二見の浦のはまくりを
貝合とておゝふなりけり　　西行

蛤は大さの揃ひたる、紋樣尠きもの、三百六十を用ふ、是れ一年に象る、貝の內面には紙を張り、極彩色の人物、花鳥などの、兩片とも同樣の繪を畫く陽殼の方を地貝と云ひ、陰殼の方を出貝と云ふ、別々の貝桶に納む、貝桶は深さ一尺、徑り一尺計りなる、六角の深き野郎蓋の桶なり（八角圓形もある）極彩色の畫、又は黑塗蒔畫などあり、別に臺あり足を附け組を掛く、貝おほひの仕方は、先づ毛氈二枚を敷き、中央に壇紙を布く、扨て地貝は十二箇を圓形に列ぶ、是れ十二月に象る、其周圍に殘部の地貝を悉く並べ、終れば出貝一箇を取りて、壇紙の中央に置く、出貝の頭は貴人に向ふ、此貝を並ぶる事を貝をたつると云ふ、

貝おほふ人は、貴人を正面に其左右に組を分ち並ぶ、出貝出たらば、其文と同樣のものを地貝中に求め、見當りたらば、靜に右手に地貝をおほひ取りて其地貝にて出貝を掬ひ、搔き寄する樣に取揚げ、膝にて貝を合はす、合ひたらば頭を下にし自ら貝の開くを、左手に地貝を取り、右手に出貝を取りて、膝の前に二行に並ぶ、

貝一つおほひ取りたらば、又出貝を出す、地貝のあと明きたる所へは、廻りの貝を取りて、ソト塡めおくなり、斯く幾度も繰返へして、貝おほひたる數の多き方を勝となす、





地貝桶（出貝）

出貝桶（金貝）

ケーエ本

# 貝の利用（三）

## 和洋の器物

古來貝を器物に利用したる事は甚多い其主なる物を擧ぐれば左の如きもので有る、

法螺の陣貝　榮螺の燈火壺　蛤、蟹貝の香合

赤貝、鮑の大盃　鮑貝の菓子鉢及鍋　帆立貝の鍋

板屋貝の杓子　小貝嵌入の簪

現時の貝製品

材料は榮螺、夜光、鮑、蝶貝等で簪ピン、指輪、杓子、水呑菓子鉢等種々を作る又小兒の玩具用の笛、船、おはじき、鳥、くすだま等有る、

外國製品

時計　雙眼鏡　ナイフ　ペン軸　杓子

菓子皿　灰皿　ピン等種々

其他貝を附着したる玩具も種々ある事は日本と同じである、

外國製品
夜光、鮑張交
ナイフ
螺貝利用
時計
雙眼鏡




昔ノ製品
菊置上ゲ
蛤香合
赤貝酒呑
中井履軒先生在銘

# 貝の利用（四）

## 貝釦

貝釦は貝利用中の主要なるもので、産額年百萬圓に達し、其大半は英佛獨印度南北米國支那南洋等へ輸出する、原料は十數種貝のを使用するが、常に需要多きは、高瀬貝、廣瀬貝、夔蝶、玉貝、蝶貝、眞珠貝等である、而して原料は多く輸入品である、

貝釦製作工程

一　所定の寸法の圓筒鋸にて穿孔する
二　兩面を研石で磨く
三　模樣卽ち輪廓を彫刻す
四　二箇又は四箇の鑽穿をなす
五　木屑房州砂と混して摩擦せしめ磨く
六　藥液に浸して漂白す（蝶貝、眞珠貝は漂白せず）
七　製品を選擇しカードに綴付く

## 摺貝及貝紙

鮑貝の良好なるものを選み、耳（氣孔より上部の緣）を切取りたるを多く輸出す、之れを切貝と云ふ、

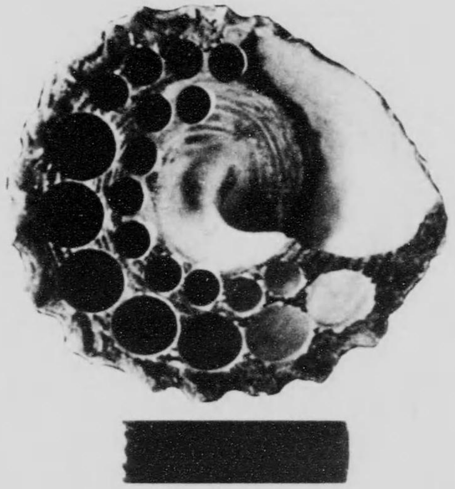
摺貝とは貝片を砥石にて紙の如く研磨したもので、薄きを薄貝、厚きを中摺と云ふ、原料は重に鮑貝を用ひ、又夜光、蝶貝、烏貝などを使用するが、僅少で內地向である、

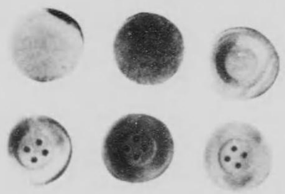
摺貝の工程

一　生地取り　良好の部分長三角形のものを取る
二　服摺り　內面を蒲鉾形の砥石で研磨す
三　甲摺り　表面を研磨す薄くなれば反曲は一直線となる
四　薄め　兩面を中荒砥石にて平滑にす
五　仕揚げ　密なる砥石にて平滑とす

大形のものは、大中小に分ち、中摺は厚さに應じ秤量し、獨逸、英吉利、佛蘭西へ輸出す、

近頃貝の層を剝ぎ、紙に貼付せしむる事を發明した、該法によれば、一枚の貝殼が、約三十枚の薄片に分離すると云ふ事である、





穿孔シタル貝殼

錐ノ用釦貝

貝釦工程

擂貝

夜光貝製

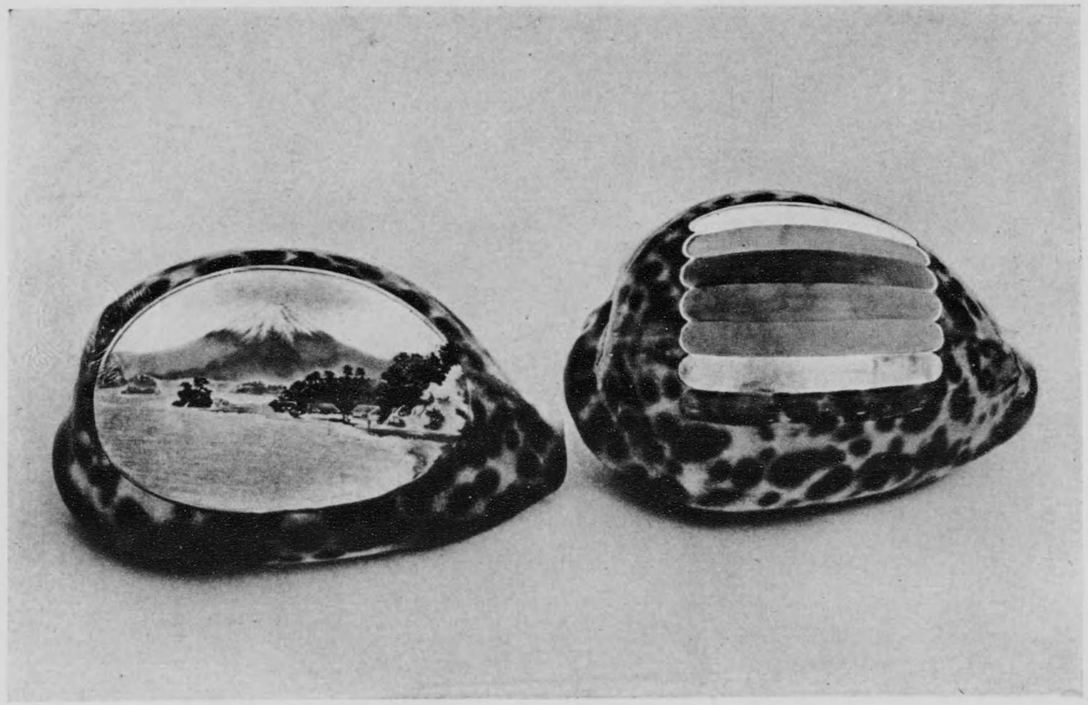
鮑貝製

## 貝の利用（五）

### 伊太利式貝彫刻

螺鈿、青貝細工、芝山象嵌等は、貝の色を切取りて圓に嵌入したものであるが、伊太利式にては、貝固有の色層を、巧に配合利用して、各種の人物、鳥獸、草花、風景等を彫刻する法で、製品は恰も彩色したる、繪畫の如く、優美にして雅味あるものである、

伊太利式に使用する、貝は二十幾種あるが、普通子安貝、千歳貝、萬寶貝、法螺貝、螺貝等である、製品は置物、文鎮、鉢、ピン、簪、カフス釦、帶止等種々を作る、



鎮文　士富ノ浦靜　　層色ノ貝

# 貝の應用（一）

## 圖案

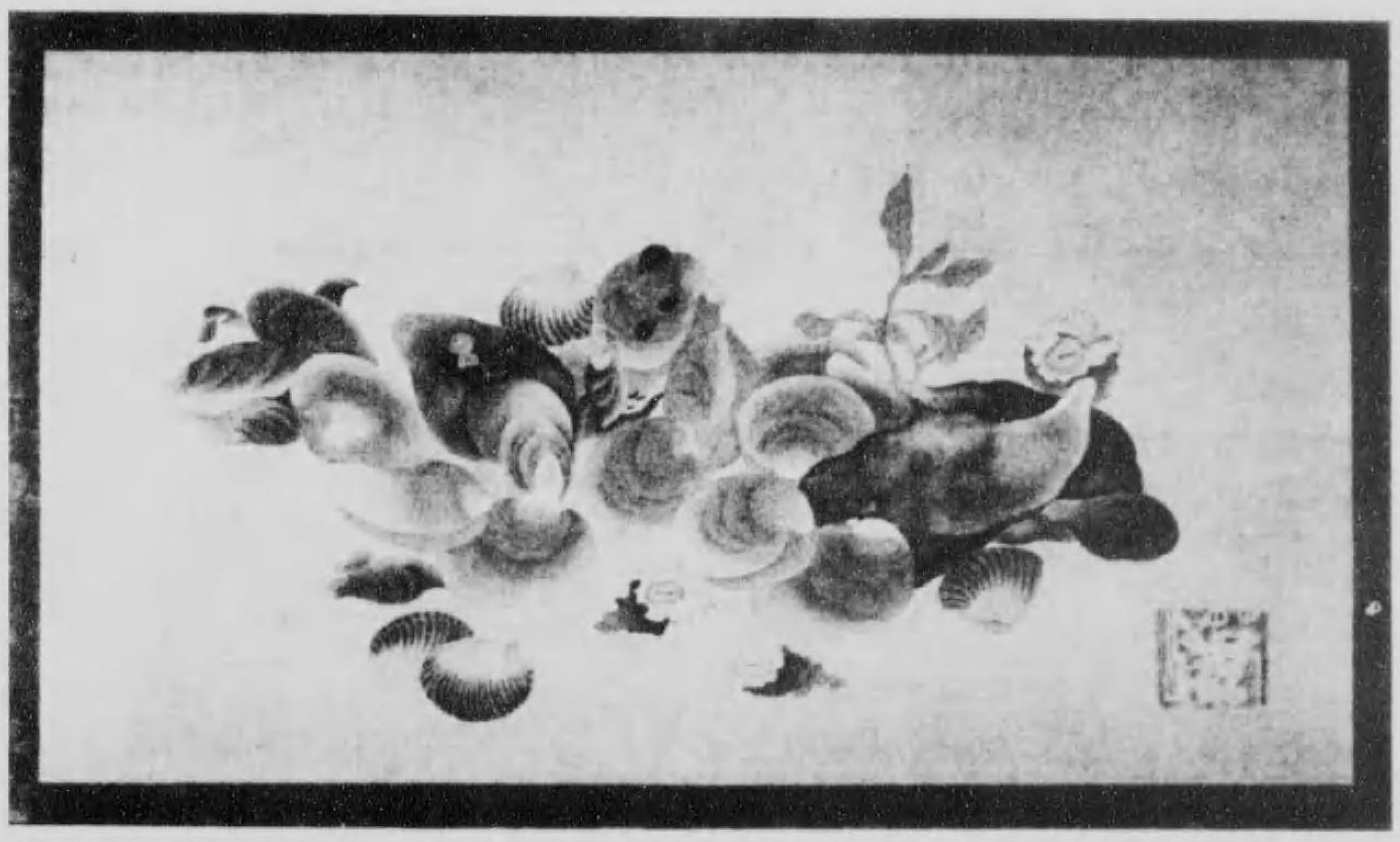
貝を繪畫に應用せし事は餘程古い事で、北宋趙昌筆群貝之圖（國寶原圖京都本法寺藏）など其一である

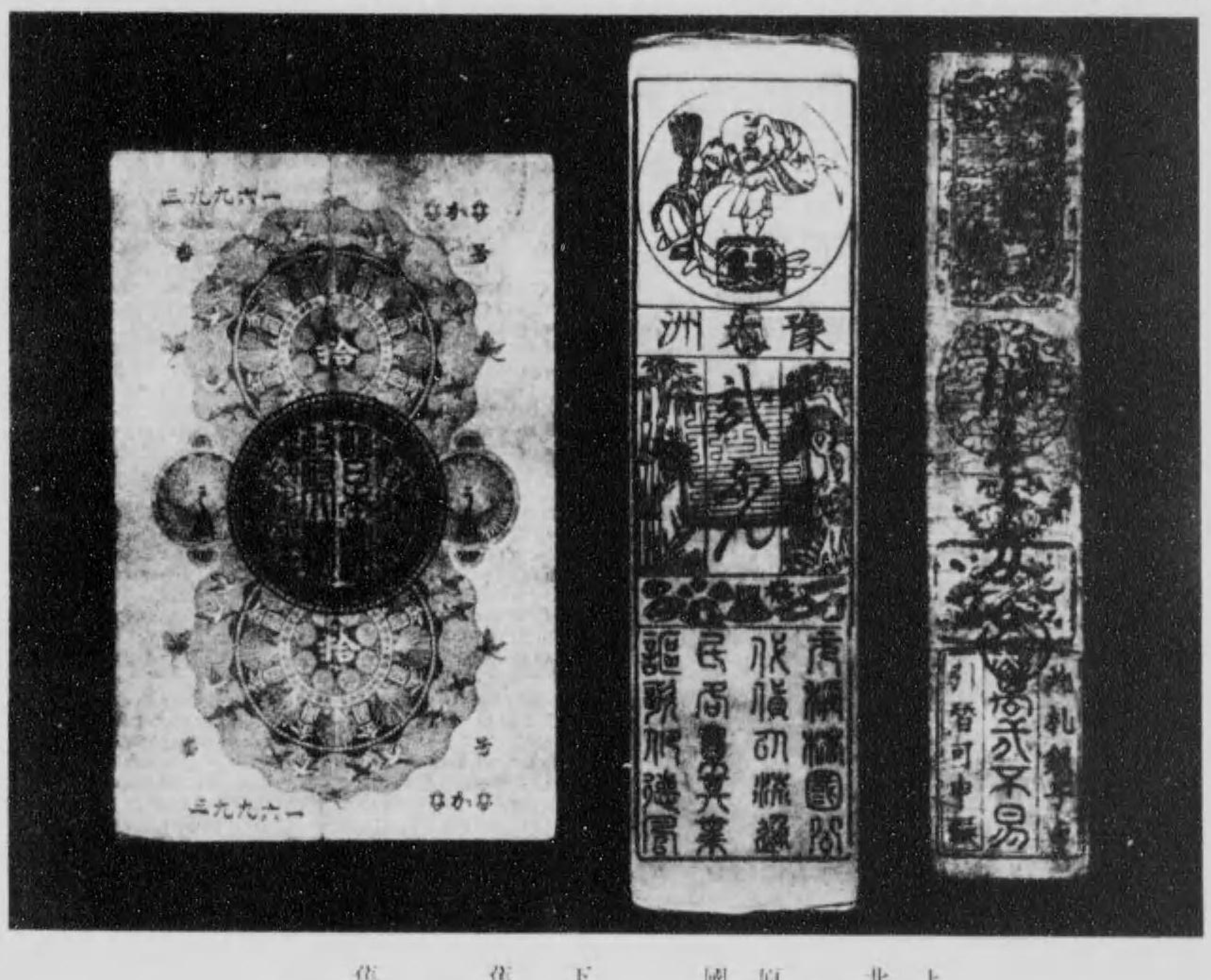
貝を衣服地、其他の圖案に應用せし事も、頗分多い、貝は寶で有ると云ふ意味から、舊藩札並に明治遥寶の舊紙幣にも、貝の圖がある、

貝の形を模し、器物を作りし事も多くある、

蛤蘆貝形の皿及香盒　榮螺の蓋置　鮑貝の鉢

貝類を刀劍或は裝身具の圖案に應用して居る、





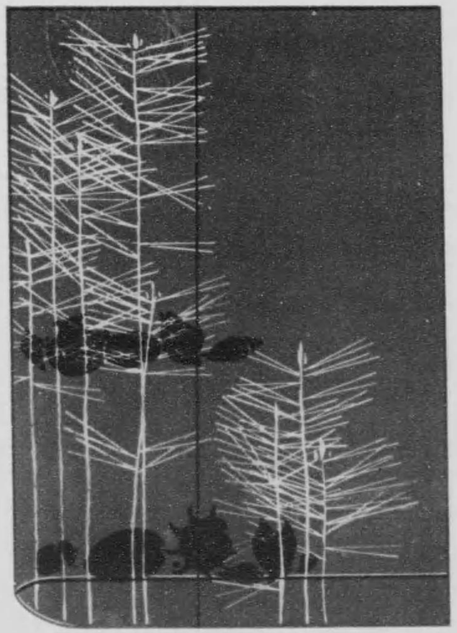
上 北宋趙昌筆
群貝之圖（模寫）
原本京都本法寺藏
國寶

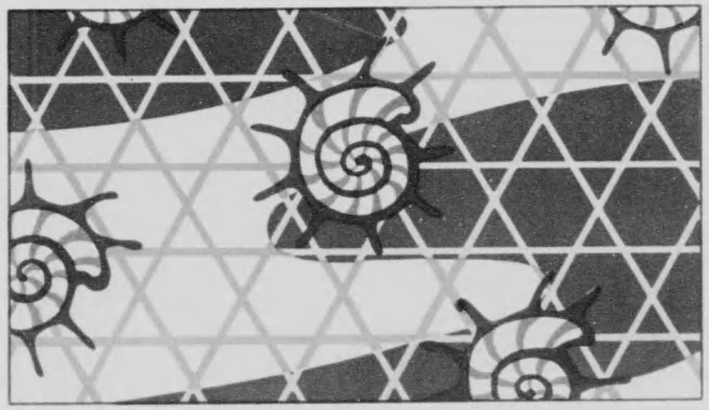
下 舊藩札
二種
舊紙幣
明治通寶

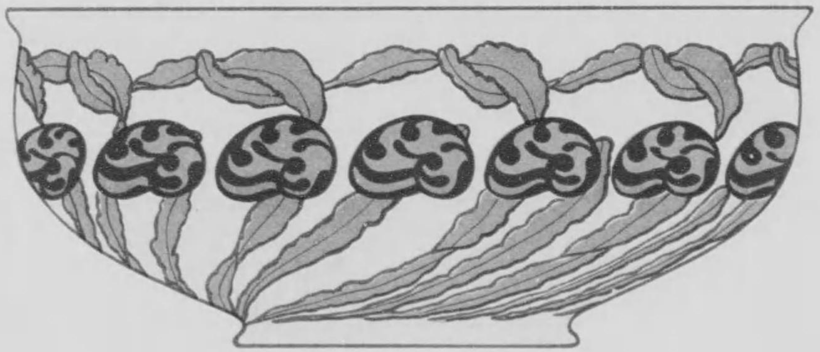
# 貝の應用

## 圖案

## (二)







## 貝貨

原始時代に貝を握りて、物と交換を始めたのが、通貨の起源である、支那、印度、地方など盛に流通したので、貨財寶貝貨貪貯販賣貿賀資貨買賞賢等の字が出來、又貝をたからと訓す、

此貝は寶貝の一種で、きいろたからめんがたたからと稱するもので、印度洋沿岸の特產で有る我邦では琉球に產す、アフリカ内地、印度内地にては今尙通用して居ると云ふ、

南洋土人、臺灣生蕃等總て未開の人種、は貝を貴ぶ事甚しく、貝を繫ぎて首飾り、胸飾り、腕輪等などに用ひ、彼等の唯一の裝身具である、又貝を薄片とし絲に通して通貨として居る、或種の貝貨は、人身を賣買する價のあるのもあると云ふ、

ニューアイルランド
ニューブリテン
土人用貝貨

ニューギニア
土人用貝貨

南濠洲
土人用貝貨
（黑色ハ貝ニ非ズ）

上
印度
内地通用貝貨
（寶貝ノ一種パナビラタカラ）

下
臺灣
生蕃ノ貝貨

## 南洋土人頸飾

頸飾胸飾腕輪等を裝身具とする事は石器時代の遺風で有ると思ふ、歐米各國にては眞珠寶石貴金屬を鏤め美術の粹を極めて居るが未開人種に在りては加工程度が幼稚なる爲め却て自然美を發揮し雅味あるのが面白い

昌祥夫人
墓誌側

## 貝の化石

幾萬年前に、棲息したる貝が、大地變の爲に、地中に埋沒して、化石したもので、化石の産出地は、當時の海底或は湖沼の一部で、有つた事が斷定せられる、我邦化石の分布は甚廣く、殊に陸奥の小島谷附近、羽前の米澤附近、下野の鹽原附近、武藏の秩父、美濃の赤阪等は、有名の産地で、何れも海岸を去る事遠く、山嶽重疊たる地に、貝化石の産するのも、面白い事で有る、

各地ノ化石

北海道日高産

下野産

赤阪産

八重山産

紀伊産

美濃赤阪産

大正貳年八月貳拾五日印刷
大正貳年八月參拾壹日發行

複製不許

著作兼發行者　兵庫縣明石郡垂水村ノ内山田二千六十九番地　矢倉和三郎

印刷者　神戸市再度筋三十四番屋敷　松村宗太郎

印刷所　神戸市再度筋三十四番屋敷　光村印刷株式會社

發行所　舞子公園西　舞子介類館

發賣所

京都市動物園南　平瀨介館
郵便振替貯金口座東京壹貳〇五貳番
電話九七四番

東京市日本橋區通三丁目　丸善株式會社
郵便振替貯金口座東京第五番
電話本局二八、一七、二〇八、八七六、一〇三三、三三三二番

大阪市心齋橋筋博勞町四丁目　丸善株式會社大阪支店
郵便振替貯金口座大阪第七四番
電話南特一四五〇、二八七八番

京都市三條通リ麩屋町西ヘ入　丸善株式會社京都支店
郵便振替貯金口座大阪壹七參番
電話特上二九六〇番

408
83

終